

## 令和3年度 新規研究課題の概要

分野	No.	課題名	期待される成果
プロジェクト研究		ブランド京野菜生産拡大のための機械化・省力体系の構築	需要の高い <b>ブランド京野菜品目</b> を持続的に生産していくため、規模拡大の制限要因である収穫、調製作業等の <b>自動化・省力化</b> を実現し、集落営農や法人、若手経営者へ提案可能な経営メニューを構築。
	1	エビイモ省力栽培体系の構築と実証	<b>エビイモ</b> で重労働を伴う <b>中耕培土、収穫、出荷調製</b> について、機械・機具を使用した際の効果の評価・検証と現地実証を行い、 <b>機械化体系を確立</b> し、導入指針を作成。
	2	万願寺とうがらし省力化のための選果機の開発	長時間を要する <b>万願寺トウガラシ</b> の選別作業用に、企業連携により個別農家向けの安価な <b>形状選別機を開発</b> する。また、生体蛍光反応を利用した <b>非破壊の果実品質判別技術の開発</b> と、選果機への導入を目指す。
	3	機械化による丹波黒ダイズ系エダマメの省力収穫体系の構築	一般のエダマメ品種より茎が太いこと等から、収穫自動化には至っていない <b>丹波黒ダイズ系エダマメ</b> について、 <b>収穫機の改良</b> に取り組むとともに、草姿をコンパクトにする栽培方法を開発し、機械適応性を向上。
	4	Withコロナ宇治茶プロジェクト・新生活様式での需要創造のための研究開発	新型コロナウイルスの影響で生産額が低迷している宇治茶の需要拡大に向けて、 <b>苦み・渋みが少なく家族で楽しめる抹茶</b> 生産技術や、 <b>簡易な常温保存方法</b> を開発、新しい飲み方（商品）の有効性の評価などに取り組む。「おうち時間」での利用を推進するためのPR情報源を創出する。
要望に基づく研究	5	輪作体系における特産豆類栽培での適正な土壌水分管理による安定収量の確保	土壌水分等の影響で収量が低迷している <b>特産豆類</b> 産地のため、作業性・コスト面から、より導入しやすい <b>排水改善技術、かん水技術</b> について、既存技術とあわせ検証し、メニュー化を図る。
	6	酒造適性と収量性を向上させた新しい酒造好適米の育成と安定生産技術の確立	<b>京都オリジナル酒造好適米「祝」</b> の生産性・醸造適性を改善するため育成中の <b>新品種候補</b> について、 <b>生育・収量特性評価</b> を行い、品種登録出願と原原種生産を実施するとともに、 <b>施肥管理</b> が生育・収量・品質に及ぼす影響について評価。 <b>現地試験</b> を踏まえて栽培マニュアルを作成。
	7	気象観測データを活用した高品質な宇治茶の生育・管理適期予測	中山間地の散在茶園等において、ほ場ごとに最適な管理を行うための「 <b>宇治茶生育等予測マッピングシステム</b> 」（無被覆「やぶきた」仕様）について、他品種・被覆管理・北部地域に対応させ、 <b>利用対象を拡大</b> 。
	8	輸出向けてん茶の製造におけるコンタミリスクを軽減する設備の開発及び手法の確立	<b>輸出基準の茶葉</b> と一般茶葉の <b>コンタミ回避</b> のため、産地で行われている製茶機清掃の負担を軽減するため、製茶過程での農薬残留値の動向を把握するとともに、 <b>製茶機械・設備の改良</b> により、コンタミリスク低減と軽労化を可能とする管理手法を確立。